

# 阿南光 甲子園に挑んだ夏。



阿南光高校野球部が第103回全国高校野球選手権徳島大会を制覇し、前身となる新野高校が1996年に出場して以来、2度目の夏の甲子園出場を果たしました。昨年、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となった2年ぶりの全国選手権。雨天のため順延となり、大会第4日の8月16日、第3試合に沖縄県代表の強豪・沖縄尚学高校と対戦しました。

序盤から、沖縄尚学の強力打線に捉えられ、また相手投手に打線が沈黙。0対8と、残念ながら、25年ぶりの勝利とはなりませんでしたが、しかし、選手が最後まで諦めず、白球を追う姿に応援席から惜しめない拍手が送られました。市民の期待と声援を背に、甲子園に挑んだ夏。そのひたむきにプレーする姿は市民の胸に、そして野球のまちの歴史に深く刻まれました。

## 祝甲子園出場 市庁舎に横断幕



8月1日、阿南光高校を応援するため、野球のまち阿南推進協議会が市役所庁舎正面玄関に横断幕を設置しました。横断幕は縦1.2メートル、横9メートル。白地に「祝阿南光高校甲子園出場」と記されています。

## 一戦必勝で頑張る 市役所に表敬訪問



8月2日、阿南光高校の西校長や野球部の中山監督、選手などが市役所に表敬訪問いただきました。萩野主将は、「粘り強く泥くさく戦う。一戦必勝で頑張りたい」と決意を表明。表原市長が、「市民の声援を受け、持てる力をいかに発揮してほしい」とエールを送りました。

## 竹紙に思いを込めて 市民が激励の寄せ書き



8月5日、市役所で市民などが阿南光高校の生徒手作りの竹紙に激励の寄せ書きをしました。縦0.9メートル、横1.8メートルの竹紙に「甲子園で輝く光になれ」などと書き込んでいました。同校は、地域課題となっている放置竹林の解決のため、竹の活用に取り組んでいます。